長崎大学 子どもの心の医療・教育センター
―子どもの心の支援にかかわる高度人材育成プログラム2023―

【研修報告】B-10 不登校への対応 （講師：河田将一）

◆不登校とは

※文部科学省の定義
何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくてもできない状況にある者（ただし、病気や経済的理由によるものを除く）

※斎藤（2013）によれば
学校（もしくは登校）に対して、怖れ、拒否感、怒り、罪悪感などの葛藤をともない、欠席状態を続けること

◆不登校のきっかけ
あくまでも「引き金を引いた特定の出来事」
不登校は特定の出来事のみを改善するだけで解決するものではないことが圧倒的に多い

◆本当の原因は本人にも分からない・・・
・学校生活での様々な関係性、バランス、
・家庭での育ち（養育環境、親子きょうだいの関わり）
・ストレスへの対処の方法、パーソナリティ など

※これらが輻輳して、限界点を超えてしまい、不登校状態を生み出している
→原因や責任を追求したところで、根本的な不登校の解決には至らないことが多い

◆登校しぶり/不登校初期時に見られる状態像の例
・帰宅後に寝る、ボーっとする、夕食を摂らない、風呂に入らない
→心身ともに疲弊している
・宿題をしない、部屋にこもる、体育服等の汚れたものを出さない
→とにかく一人でゆっくりさせてほしい
・寝付けない、眠れない
→悶々とした/不安な/嫌な気持ちが強い
・起きてこない、布団から出ない、朝食を食べない、朝食後に部屋にこもる、（制服に）着替えない
→行かねばならないのに身体が言うことを聞かない
・お腹が痛い、トイレの回数が多くなる、頭が痛い、身体がだるい、微熱がある
→行かねばならないのに、身体症状が出る
・玄関で行動が鈍る、学校のそばまで行くが、校門をくぐることができずに引き返す
→自分なりに精一杯頑張ったがそれ以上は無理
・クラスに入れば何事も無いように振る舞う、クラスメイトとの会話が弾んでいる
→必死になって対話に参加している

◆不登校への対応
・当該児童生徒の気持ちを受け止めているという姿勢をみせる
・促し、無理強いの言葉は避ける/ほどほどにする
・取り組んでくれたことに感謝の言葉を添える
・保護者/学校間の連絡の取り合い
・他の児童生徒、きょうだいと比較しない
・生活リズムを整える